（第３種郵便物認可）

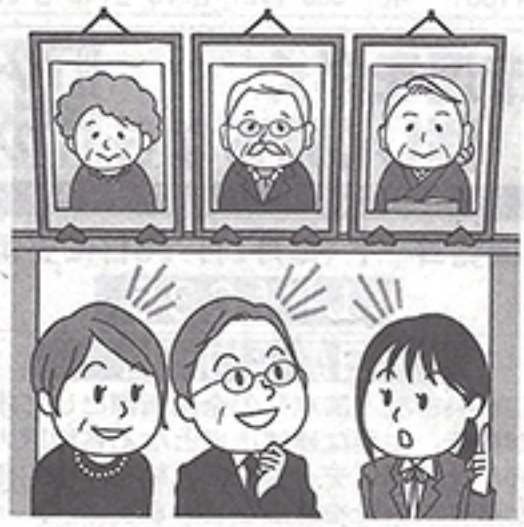
人生の仕舞い方

武藤頼胡（よりこ）の

法事で一番大切なこと
目的を後世に伝えて

もうすぐ桜の季節。今年は少し早いようです。今年度最後の話は、法事（年忌法要）についてです。

昨日、大阪の寺の住職と食事しました。その時、法事のことで盛り上がりました。檀家で五十回忌をした方がいて、その方の孫やひ孫はもちろん、その本人も知らない。でも、このように法要をすることで亡くなった方の話題になり、生きるうえでの立ち位置や役割を何となく感じる。死生観を養う教育になっていると話していました。



雑誌の取材や監修で、若い方に法事のマナーについて教えてくださいと言う依頼が入ります。もちろん、服装や布施はこのようにという「形」はありますが、法事の最も大事なことは、その目的だと思います。

亡くなった方をしのび、弔う。要は身内や親しい方でじっくり思い出し、亡くなった方から何かを得る大切な行事だと思います。

人はいつか亡くなることを肌で感じ、どう生きていくか考える、よいきっかけになるのです。

その住職の母の法事での会食。懐石料理が一般的ですが、イタリア好きな方だったそう。家の近くにイタリア料理店があり、持ってきてもらうよう手配しましたが「最もおいしい食べ方は店に行くことでは」と奥さんが言い、皆で、イタリア料理店で食事したそうです。

しきたりも大事ですが「何のためにするのか」を今の社会で、このことを後世に伝えていかなければ、そのもの自体も無くなってしまう。今を生きる者の責任として、この部分をもっと大事にしていこうと思いました。

ぜひお子さんやお孫さんにこんなことも伝えてください。来年度もよろしくお願いします。

（次回は4月16日付）

（終活カウンセラー協会代表理事・武藤頼胡）